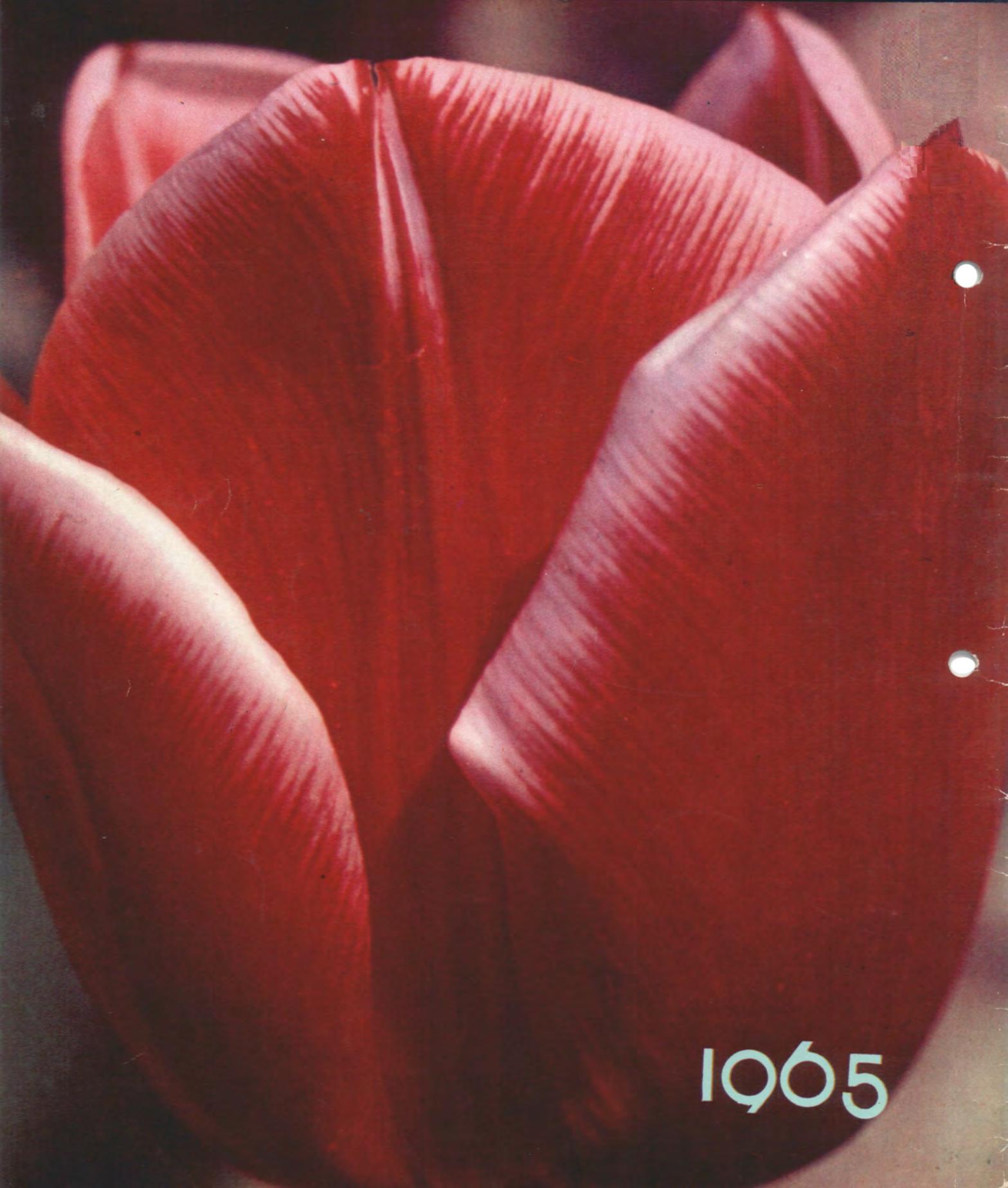


# 県民ガレキ



1965

新産業都市と県政

日本海沿岸を太平洋ベルトと同じ程度までに開発し、豊かな経済生活を築くために、39年4月、富山―高岡地区が新産業都市に指定されました。いよいよ日本海時代の開幕というわけです。

富山―高岡地区を中心に展開される新産業都市の構想は、富山、伏木両港をそれぞれ中心に発展を続けてきた工業地帯と、現在建設がいそがれている富山新港とその背後地に造成される臨海工業地帯を結びつけることを第一の軸。

近代農業を工業と併行して推進させることを第二の軸。そして恵まれた水資源を活用することを第三の軸として有機的な組合せによって展開され、「太陽の輝く緑の中の新産業都市」が出現するのです。新産業都市は、全県の五四・九%、全人口の七一・六%を占め、工業製品は一、三、八九億円（昭35）から四、〇〇〇億円（昭45）と飛躍的な発展をとげることになります。

勿論、こうした経済成長を支えて行くには、真に私たちの生活に直結した県政が進められねばなりません。

その一は、「人間の尊重」ということです。経済開発のヒズミの中に埋れ、忘れられがちな人間性をとりもどすような施策を進めます。

その二は、「県土の美化」です。私たちの住む雄大な県土の山や水を治め、災害を防ぎ、美しい観光資源を開発して、立派な郷土として子孫に伝えて行くことです。

その三は、「日本海時代の開拓」です。ソ連、中国などの対岸貿易の振興をはかり、北陸と東海地区が「中部は一つ」の合い言葉のもとに手をとり合って進むこと。こうして、私たちは誇りと自信を持って、新しい日本海時代のハイオニアールとして前進を続けることになるのです。



海の夢、これが富山新港の姿だ。（手前右、石油化学コンビナート群、左 鉄鋼コンビナート、上方中央、太閤山住宅団地）



日本海に向って、富山新港防波堤はのびて行く

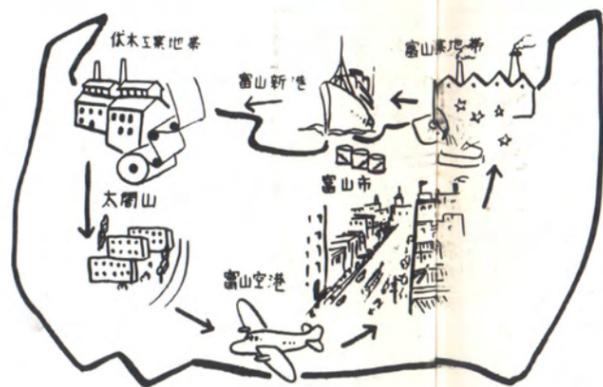


人口21万、県都富山市の近代化は進む

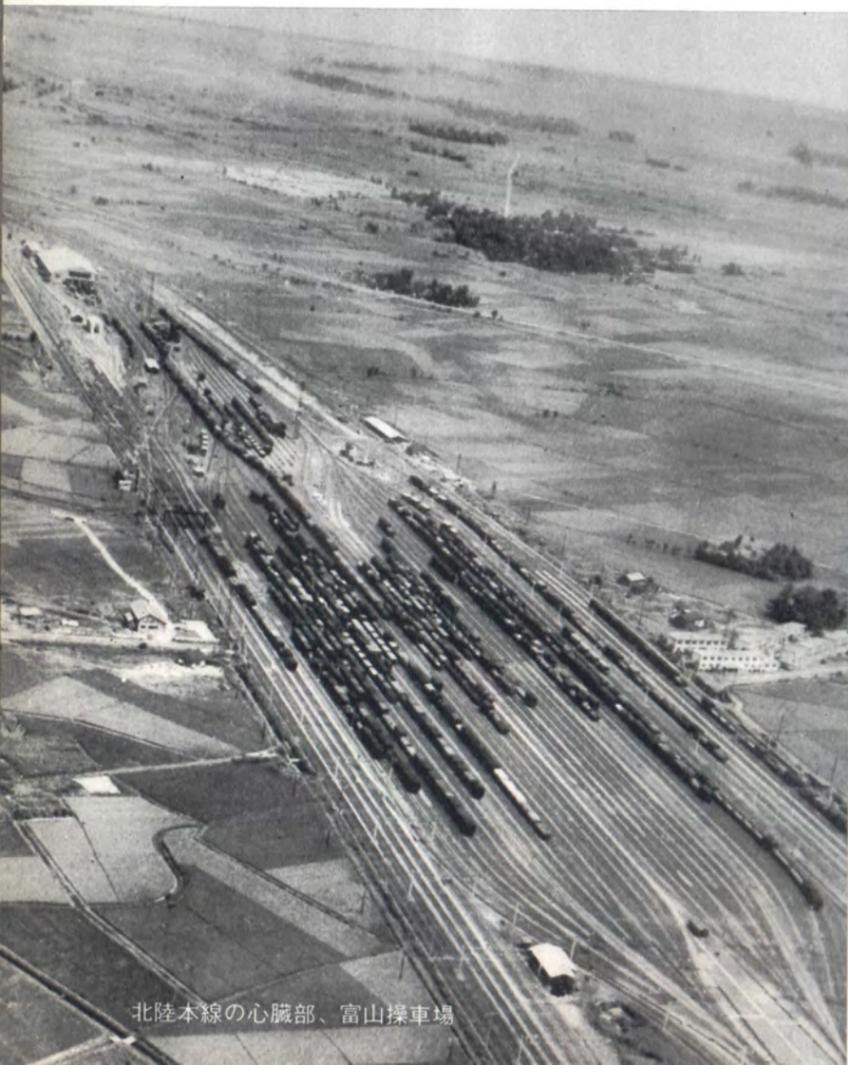


県土を空から

# 富山工業地帯へ



文化と産業の殿堂、富山県民会館



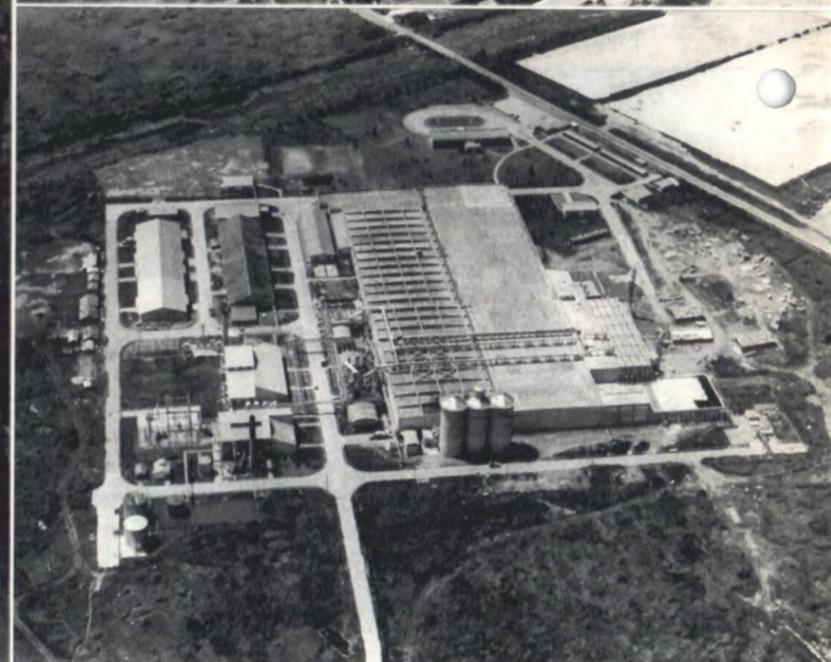
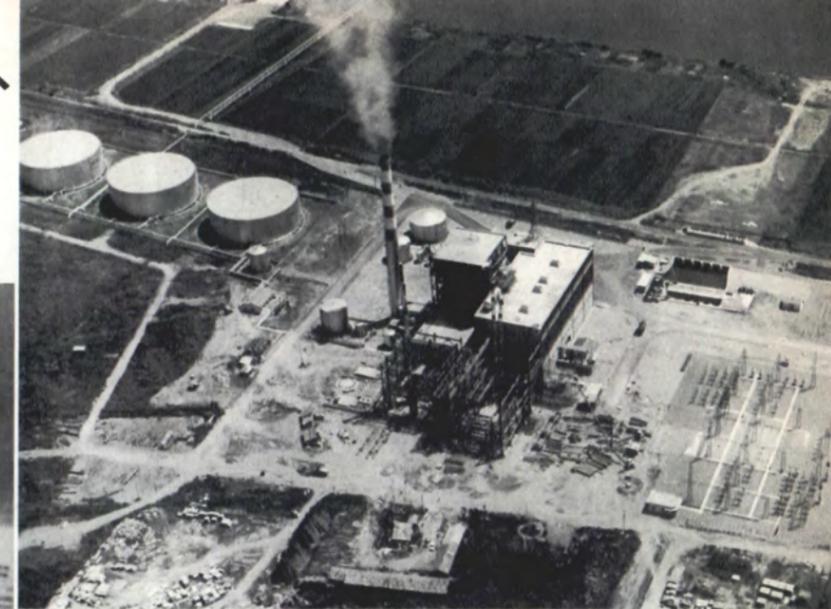
北陸本線の心臓部、富山操車場



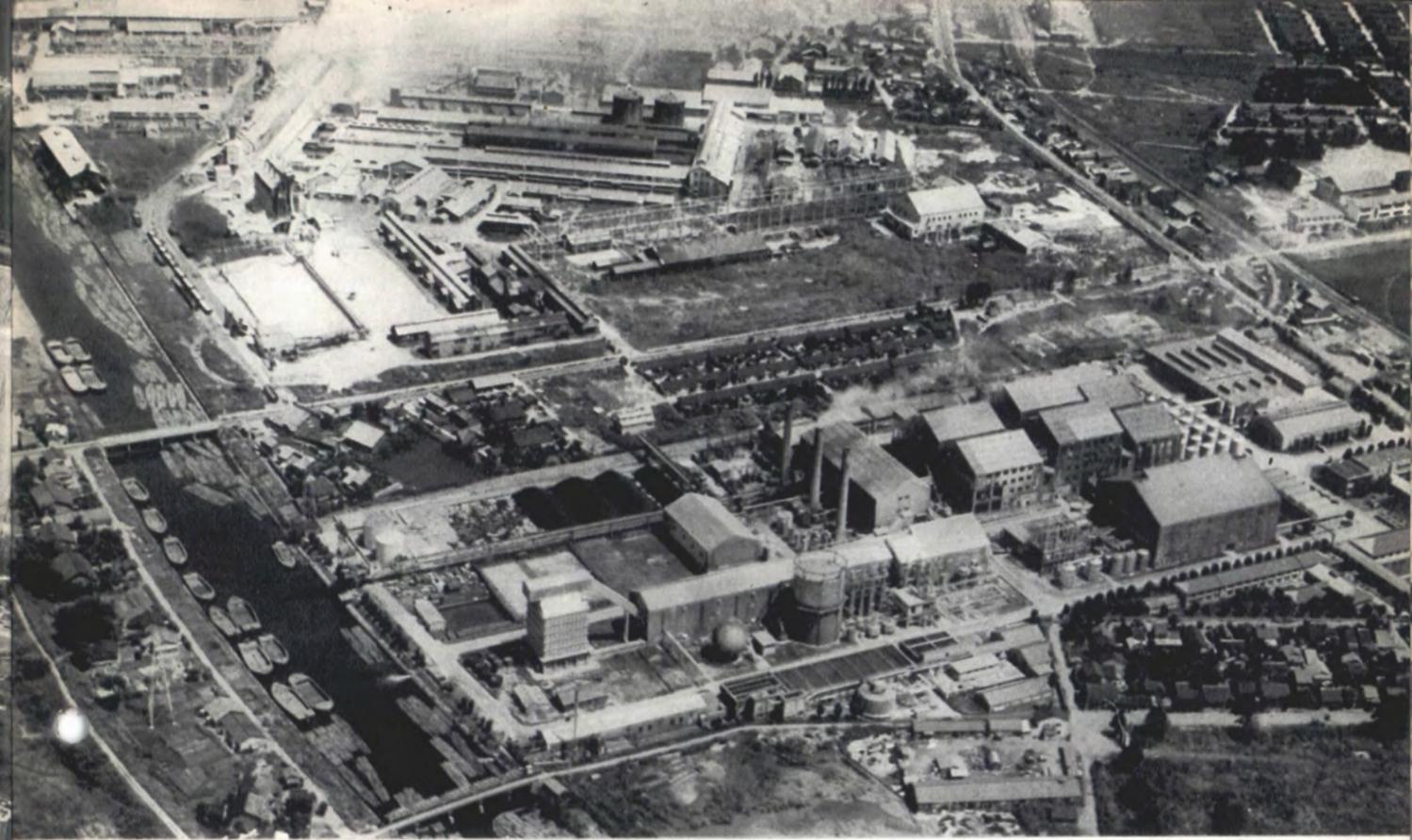
富山空港の完成で、空への道は開かれた

# 富山新港へ

建設が急がれる回産業道路



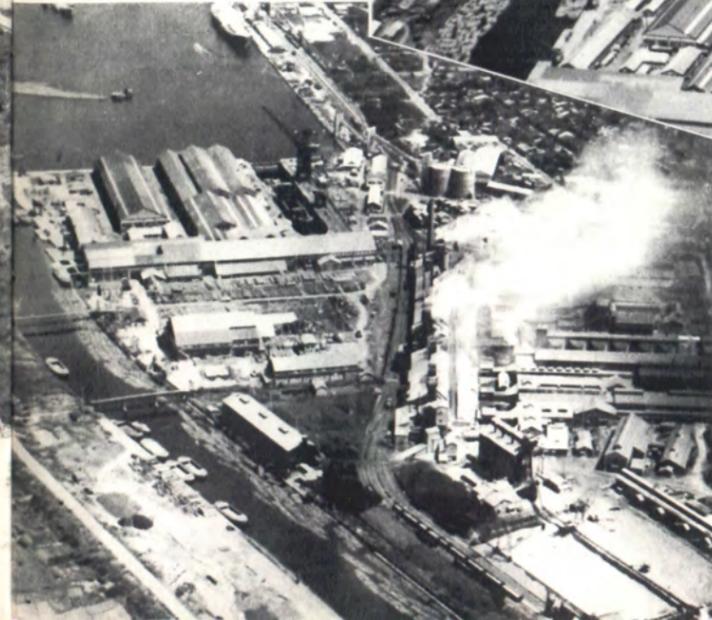
(上) 富山新港工業地帯のエネルギー源、富山火力発電所  
(中) 豊かな水を利用する化学工場  
(下) 広大な工場用地と豊富な水資源が支える近代工場



化学や鉄鋼の工場群で活況を呈する、富山工業地帯



(上) 年間 100万トンの貨物をさばく富山港  
(下) 富山工業地帯は、電炉工業も盛んである





富山新港の建設は、防波堤工事から開始された



太閤山へ



- (上) 日本海沿岸有数の工業港、伏木港
- (左) 伏木港を中心に、高岡工業地帯は広がる。
- (下) 北洋材を使った、紙パルプ工業も盛んである



北洋材で埋った放生津潟

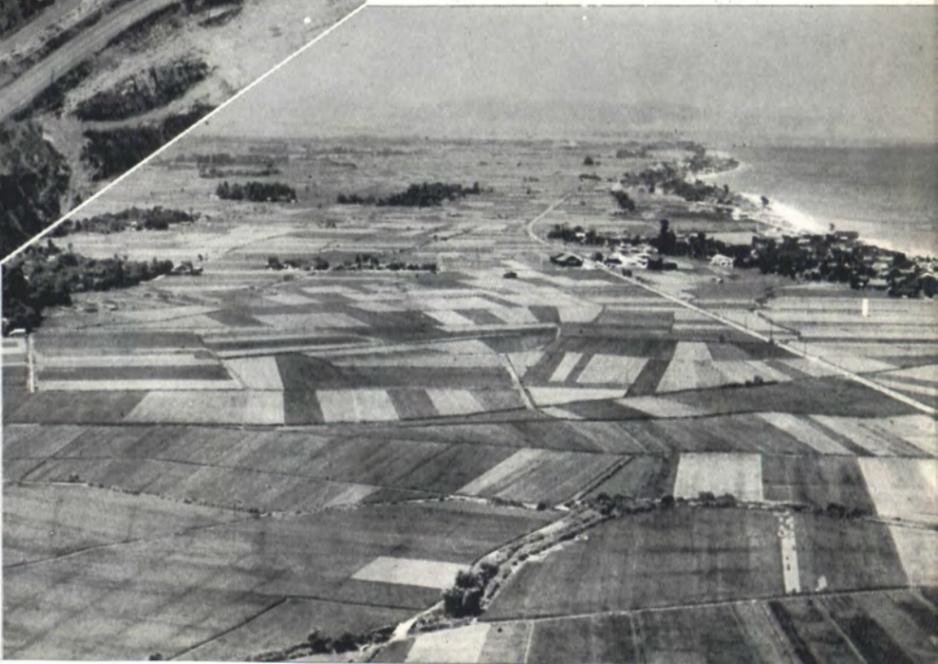


港の入口になる新湊市堀岡地区



この大関山一帯に、住宅団地が出現する日も近い

富山新港臨海工業地帯になる射水平野



近代施設を誇る、県立大谷技術短大

← 県内を、西から東に横断する国道8号線

# TKA開発



山肌を切り開いて観光道路の建設は進む



K (黒部峡谷)



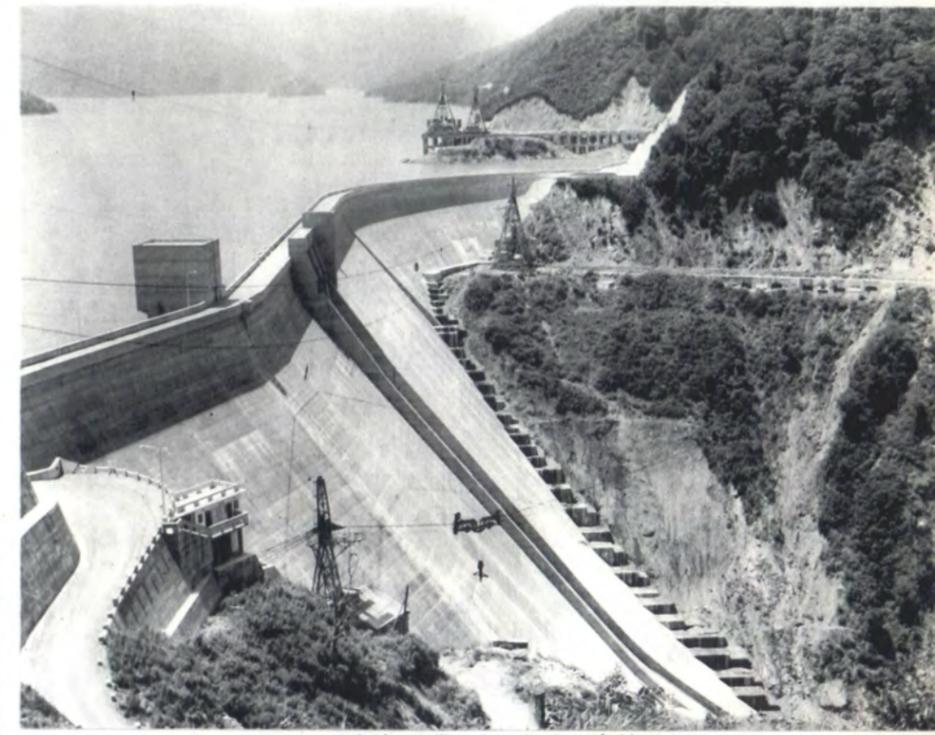
T (立山連峰)

A (有峰薬師岳)

剣岳頂上からTKA開発地帯を望む

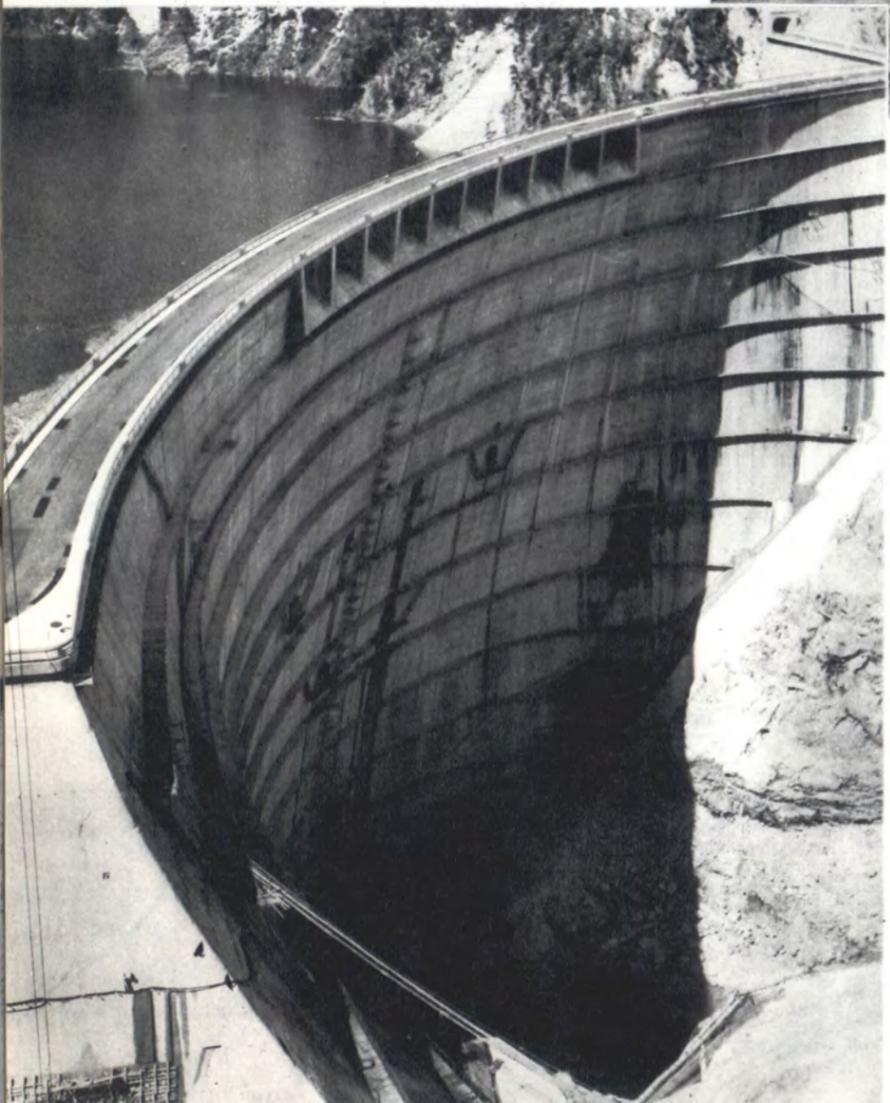


薬師岳に逝った、愛大生13名の慰霊碑



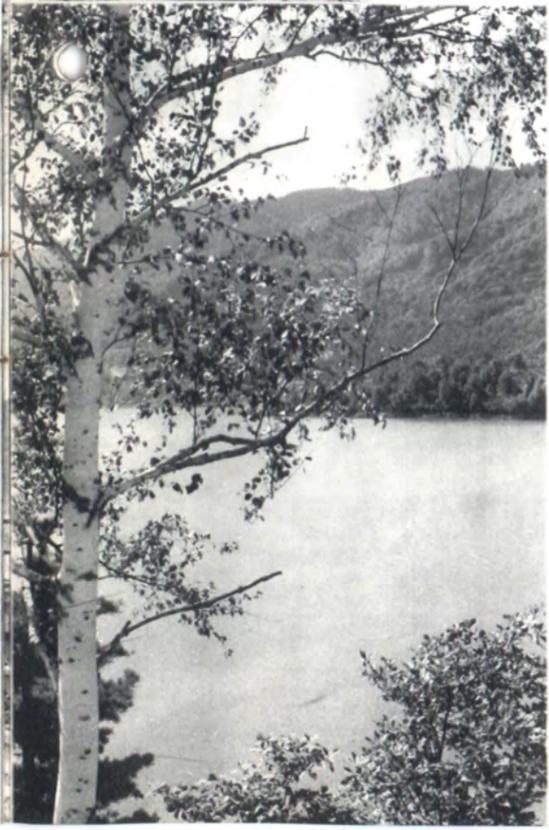
有峰(A)地帯開発の拠点、有峰ダム

黒4ダムの完成で黒部(K)地帯の開発は目覚ましい



立山(T)地帯は、登山者やハイキング客でにぎあう

春の弥陀ガ原はスキーヤーのメッカ



森と湖のハイランド有峰



有峰湖を一周する観光産業道路が完成

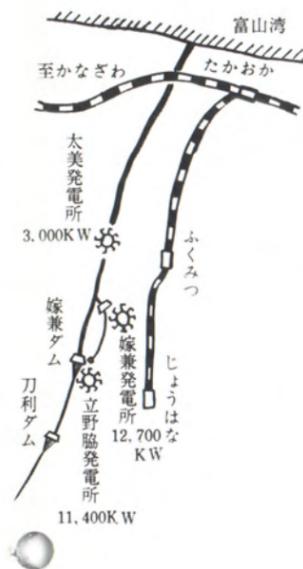
# 豊かな農林漁業へ



手で稲を刈るという時代は過ぎ去りつつある。農業の進む道、それは①機械の導入 ②畜産の振興 ③共同化の促進である。それは、農家の老人や主婦に支えられる3チャン農業から脱皮することでもある。  
(コンバインによる稲刈り作業)

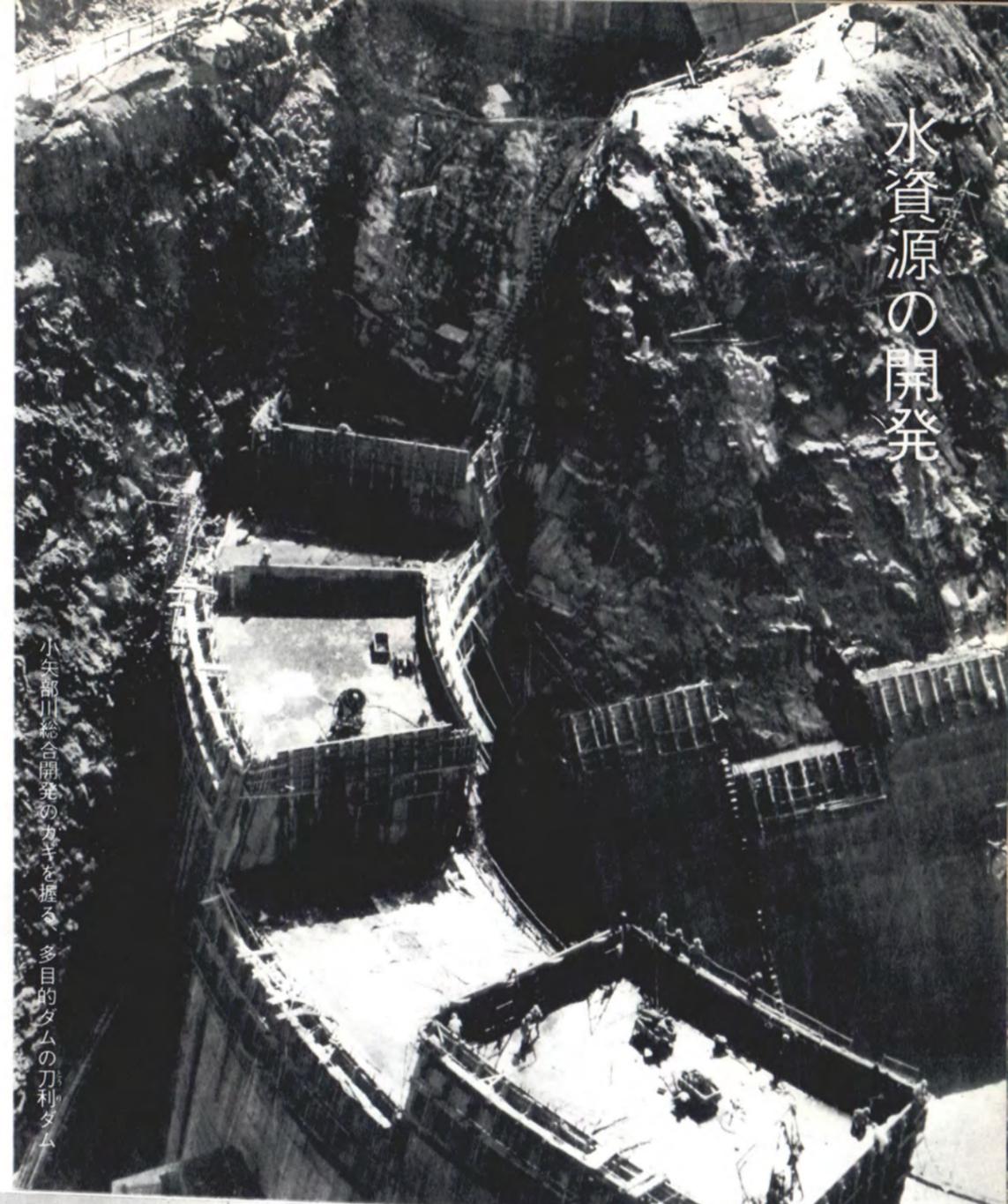


## 小矢部川の総合開発



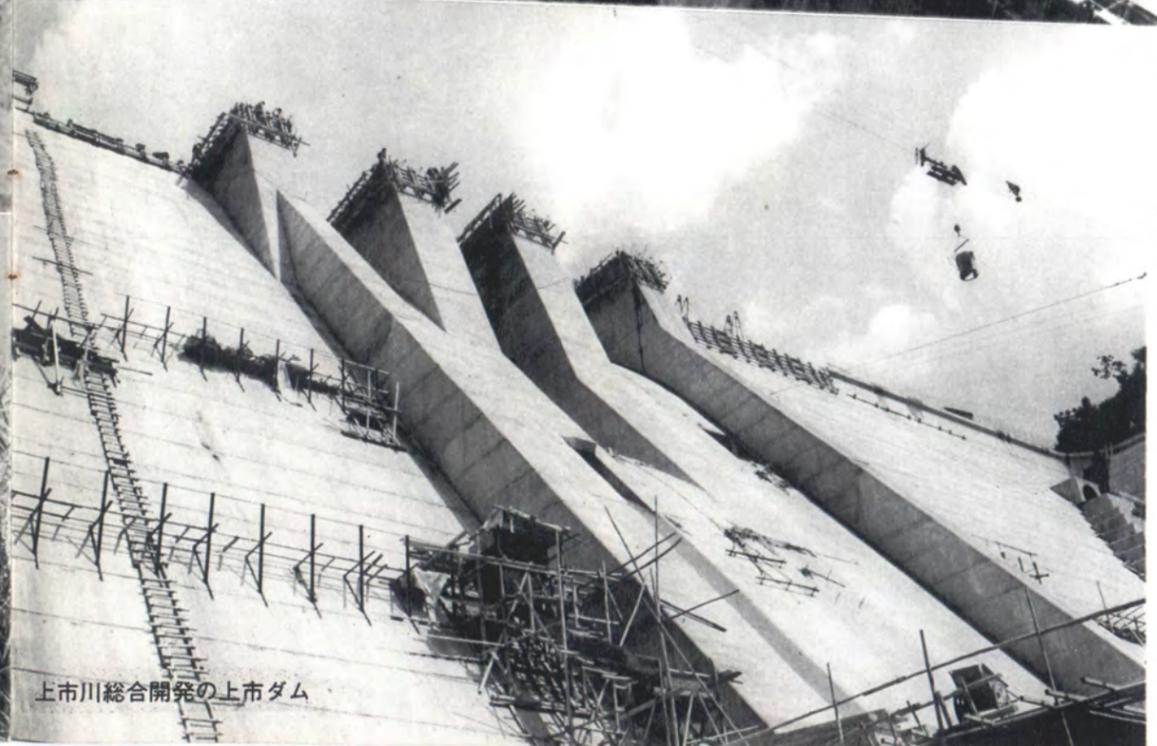
### これからの総合開発

- 和田川総合開発  
発電4万kw  
増山ダム
- 利賀川総合開発  
発電9万kw  
水無ダム
- 洪水調節  
かんがい補給  
工業用水、生活用水確保



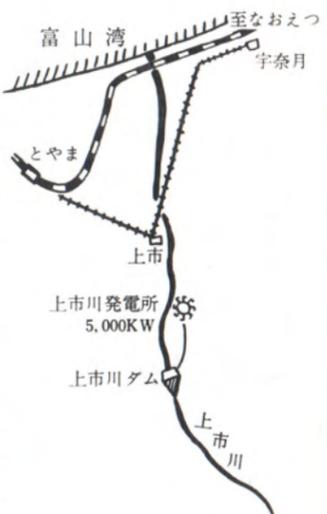
水資源の開発

小矢部川総合開発の力を握る、多目的ダムの刀利ダム



上市川総合開発の上市ダム

## 上市川の総合開発





チューリップフェアは、春の風物詩（砺波市）

輸出チューリップ栽培地  
栽培地番号 是ルロ

品別別数量	面積	積
ビミス	一三、二〇〇	三、八〇〇
アスト	五、三〇〇	一、五〇〇
ゴルドン	三、六〇〇	七、〇〇〇
パール	一、四〇〇	二、五〇〇
トリオ	一、〇〇〇	一、五〇〇
ママ	一、〇〇〇	一、五〇〇



県から輸出される球根は 1,929万球にのぼる

果樹や野菜類の需要は伸びる（魚津市）



### 富山県の漁業

不振を伝えられる漁業を興す道、それは新漁場の開拓や協同化、漁船の近代化などであるといわれる。沿岸から沖合へ、そして遠洋へと漁場は広がって行く。



### 富山県の林業

伐る林業から育てる林業へ、本県の林業は、造林を中心に発展を続けている。特に有峰県有林は、各種の苗を育て、その土地に合った種類を植え、大きな成果をあげている。



## 畜産農業の振興



草地造成はレーキドーザーで（福岡町）



畜産は優良品種の導入から（八尾町）



丘陵地帯を利用した放牧場（小矢部市）

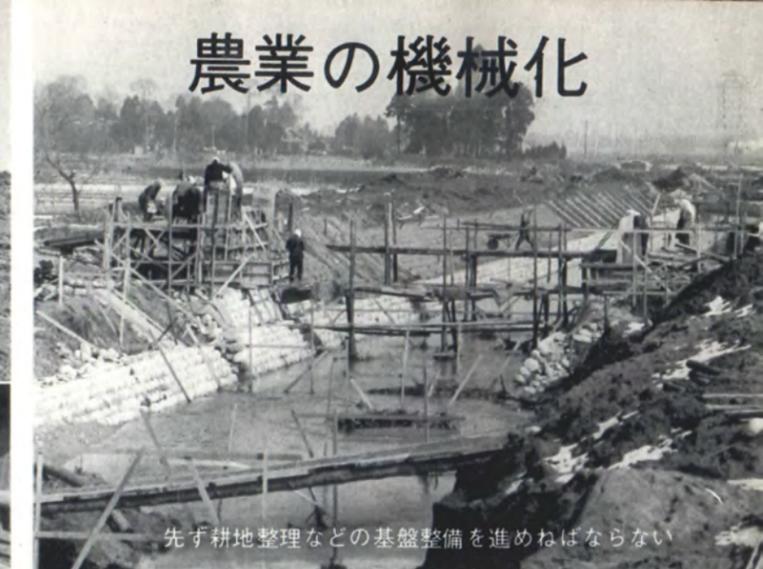


新しい放牧場には、水飲場も完備している（小矢部市）



牛乳は一か所へ集められ販売ルートへ（城端町）

## 農業の機械化



先ず耕地整理などの基盤整備を進めねばならない



荒おこしはトラクターで



苗代は耕運機を使って



ヘリコプターで農業撒布

海  
に

整然とした耕地、緑の列がどこまでも延びるところ、  
そこに新しい農業が花開く。(城端町立野ヶ原)



富山新港とそれを中心に林立する臨海工業地帯は、日本  
海時代を築いていく。(富山新港防波堤工事現場)

野  
に

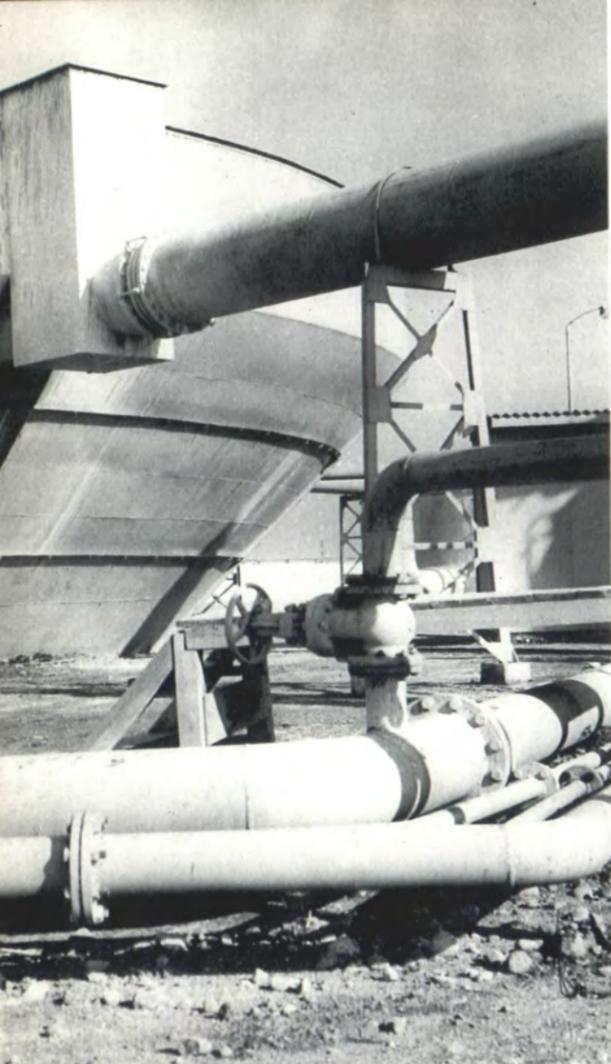
山  
に



皇太子ご夫妻には、初秋の黒部峡谷や黒四ダムを心ゆく  
までご探勝になった。(昭和39年8月28日)

# 躍進する工業

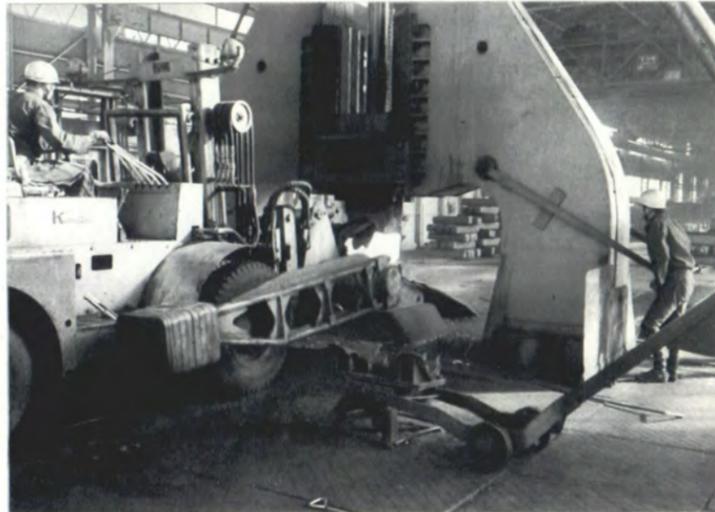
電力に加えて豊富な水資源は、工業の体質を変える大きな原動力となっている



化学は本県工業のトップ企業群である



綿紡績は化繊織物に変わり、いまも本県工業の担い手の一つである

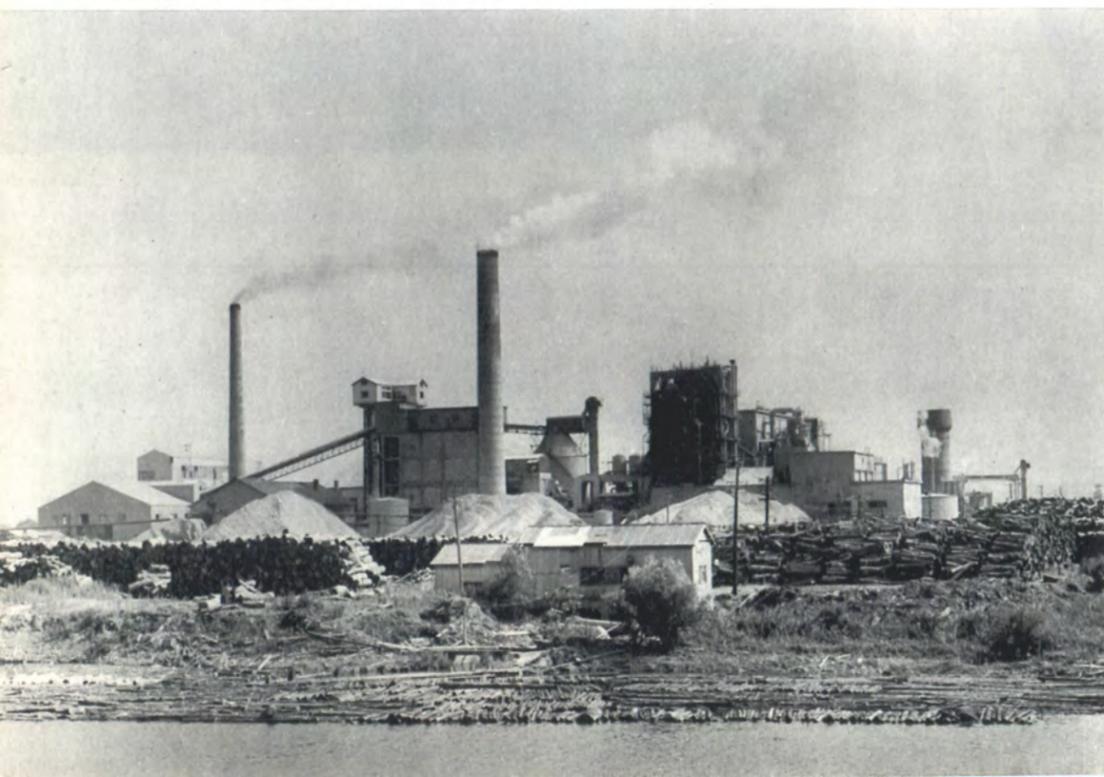


製鉄、製鋼も豊かな電力をバックに栄えてきた



電炉工業は、古くから本県工業を支えてきた。しかし、電気に加えて水資源が新しく登場。工業は大きく脱皮することになる

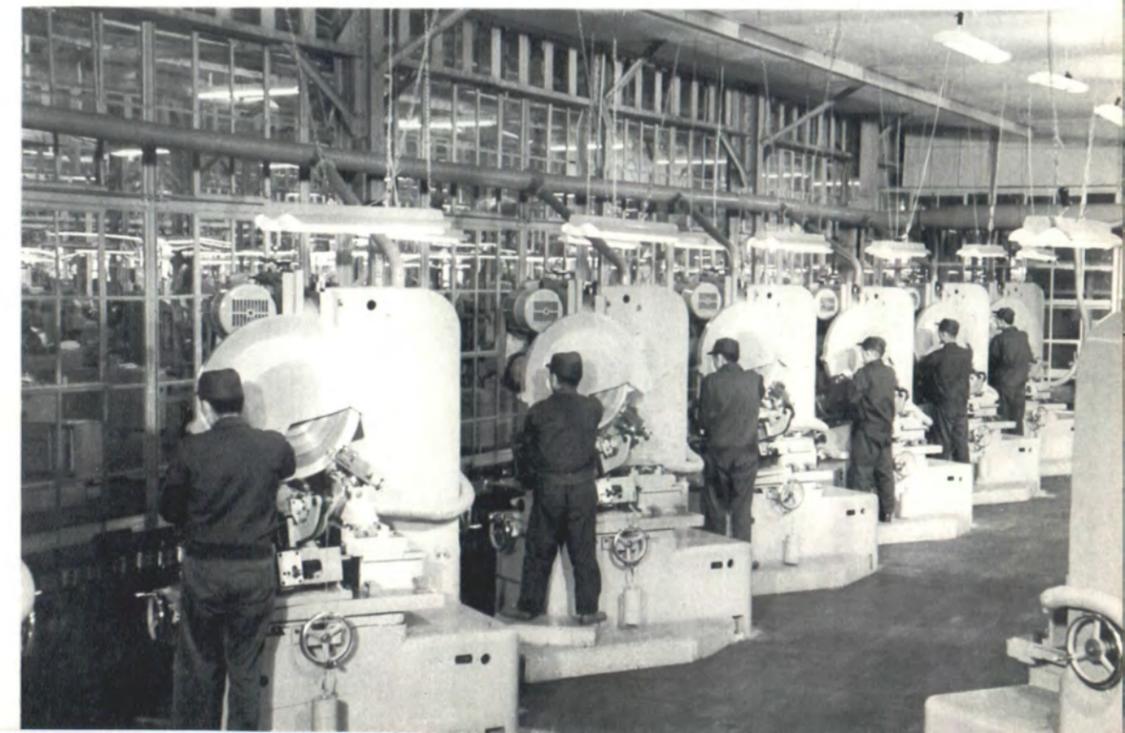
紙パルプ工業は、北洋材を原料に発展を続けてきた



本県の工業は、規模も大きく生産品も多種にわたっている



機械工業も長足の進歩を遂げた



# 富山新港



日本海時代を象徴する新港防波堤

活況を呈する新港造成基地



防波堤の地盤を固める潜水夫



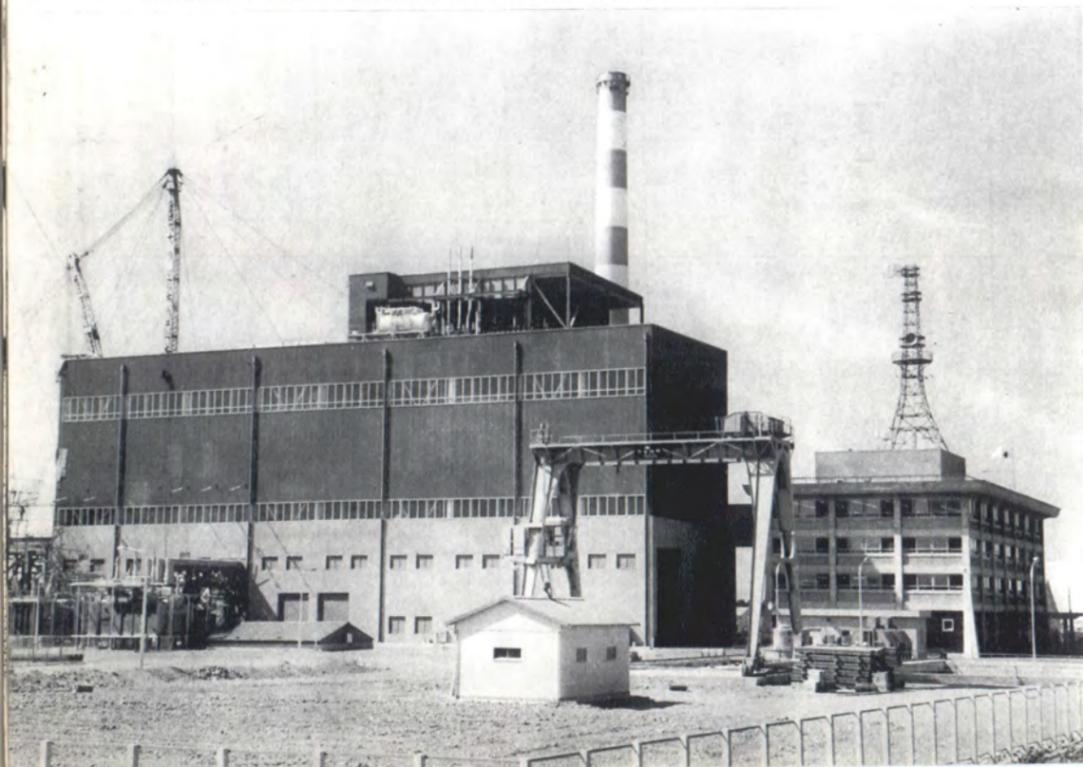
う回産業道路の建設も、築港工事に併行して進められている



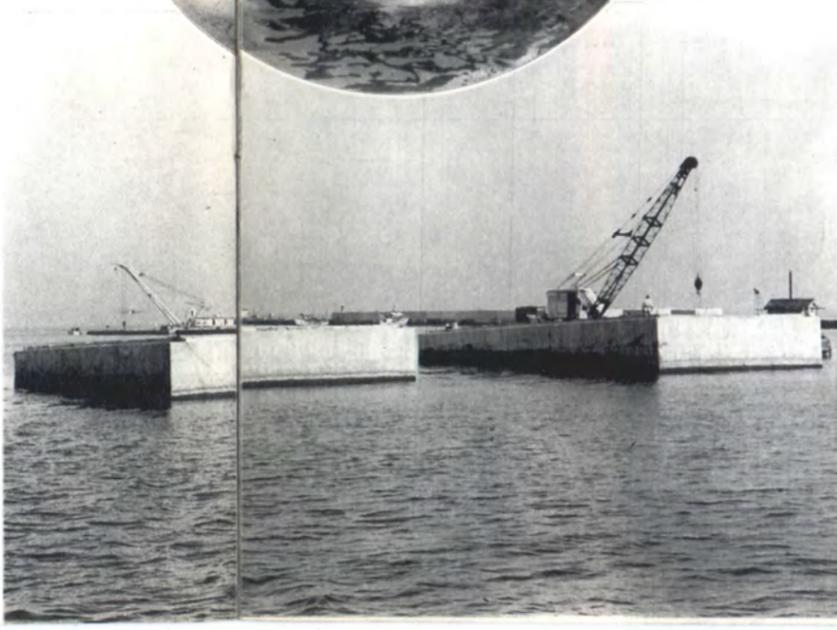
ほぼ完成した、う回産業道路



新港臨海工業地帯の動力源としての火力発電所の1号機が完成



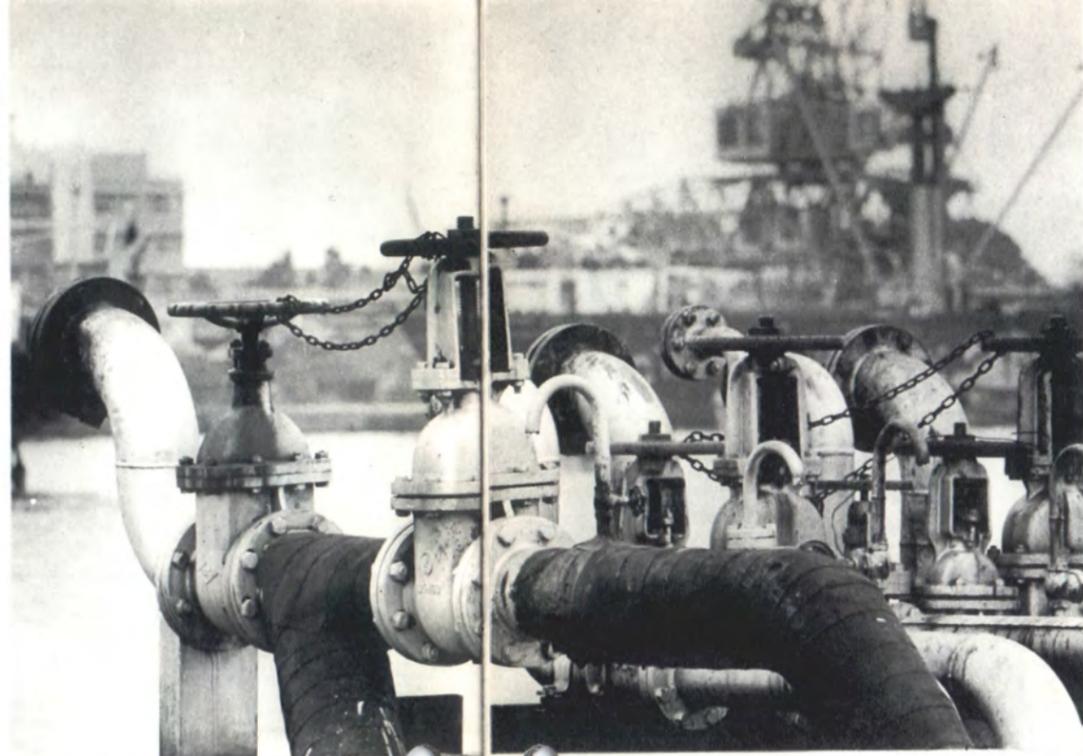
コンクリートの巨大な箱（ケーソン）を沈めながら、防波堤は日本海に向かって伸びて行く



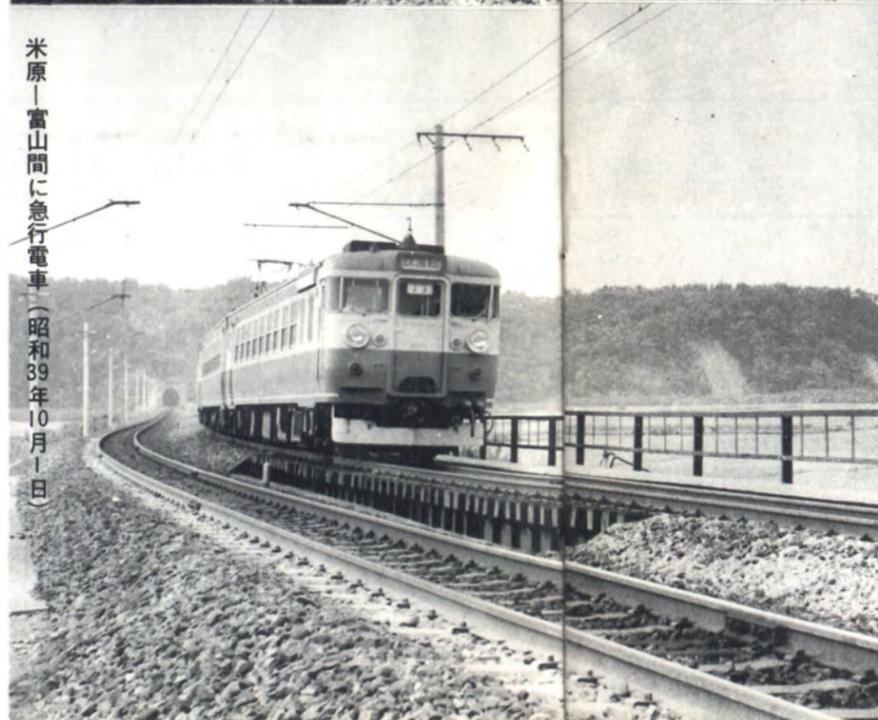
富山新港臨海工業地帯は、富山・高岡工業地帯の中央に新しく港を築き（新湊港、四方港）その背後に約500万坪にわたる工場用地を造成し、最近のコンビナート化やマンモス化しつつある重化学工業の発展に対処することになった。



石油を揚陸する施設、ドルフィン



東へ伸びる複線電化工事



米原—富山間に急行電車（昭和39年10月1日）

対岸貿易の工業港として、富山、伏木港への外国船の入港は目覚ましい



港、鉄道、空路



沖合に停泊するタンカー群



大型船でにぎあう伏木港

富山空港を結ぶ航空路  
(上) 富山—東京（全日空）  
(中) 富山—名古屋（中日本航空）  
(下) 大阪—富山—札幌（日本国内航空）

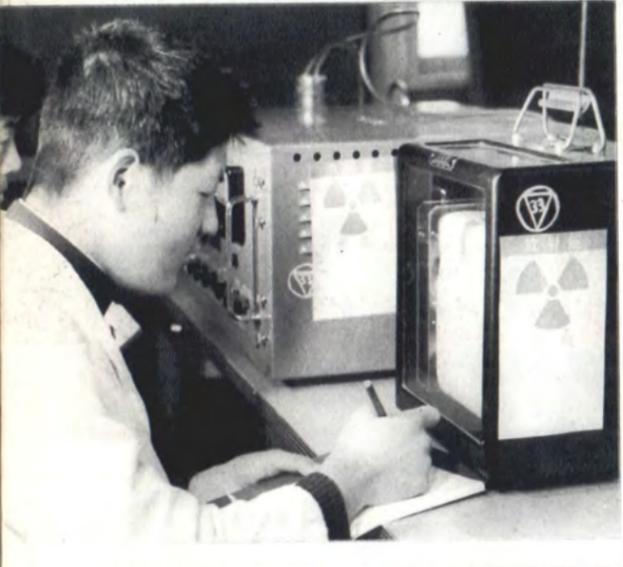
新しい教育、それは、  
科学技術教育と、地域  
差をなくすることを軸  
に展開されて行く。

小学校の理科教育



# 新しい教育

放射能も学習に参加 (県立産業高校)



小中学生の体位向上には、著しいものがある



理科の先生たちも、新しい理科教育の実習 (県理科教育センター)



特殊学級の学習風景



古い道路は山肌を切り開いた新道へ (156号線)



ほ装工事始まる (41号線)



広々とした滑らかな道路の建設へ (8号線)

路面の傷み具合を調べ、直ちに補修を指令する県道路バトカー

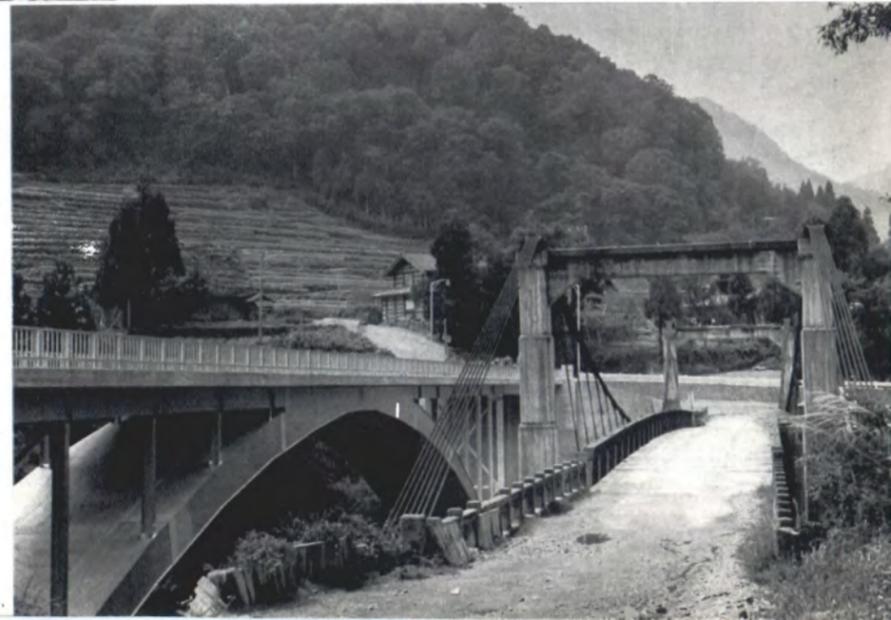


## 整備される道路・橋

(国道8号線の東の難関、親不知一帯は、トンネルで結ばれる)

川には永久橋を、鉄道とは立体交叉で、山にはトンネルと、道路は全く体質改善されて行く。

156号線は、庄川に沿って走っているため橋も少く、道路の近代化を阻んできた。いまや中部を結ぶ重要道路として、整備がいそがれている。(完成した小原橋と旧つり橋)





青少年の家の前庭で朝のつどい



食事をしながら有峰の自然を満喫できる食堂

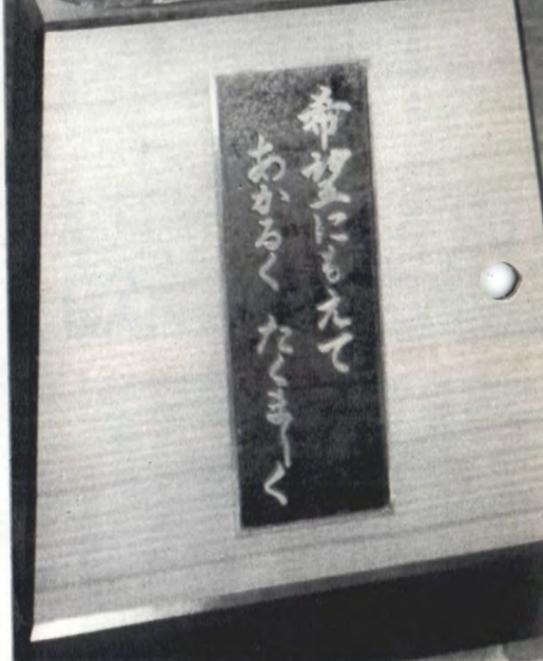


みんなで入浴



青少年の家に附属してキャンプ場も開設

# 青少年の家



有峰の大自然のなかで、思い切り青少年が手足を伸ばせるようにと、県の手で建設されたもので、規律ある共同生活を通じて、ややもすれば失われがちな人間性をとりもどし、養成しようということである。



畜産農業は草地造成から(草農業科)



電子計算機で実習(数学科)



科学技術教育の殿堂、県立大谷技術短大(衛生工学科)

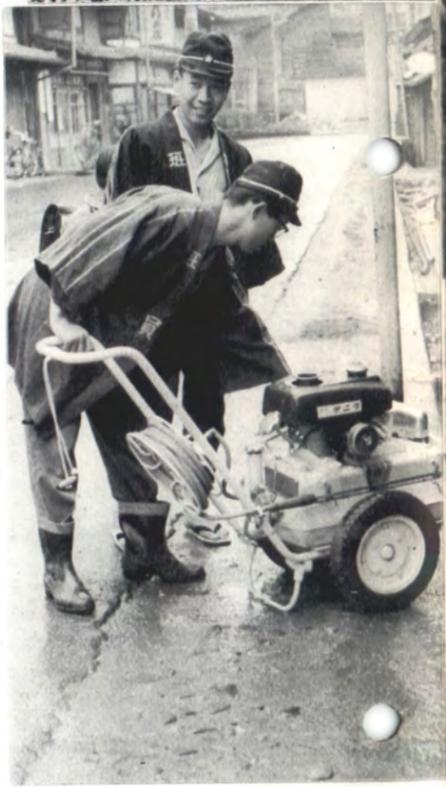


巣立つ日(県立高等看護学院)

新しい技術を身につけよう(職業訓練所)



山の遭難事故の防止に活躍する山岳ハトロール隊

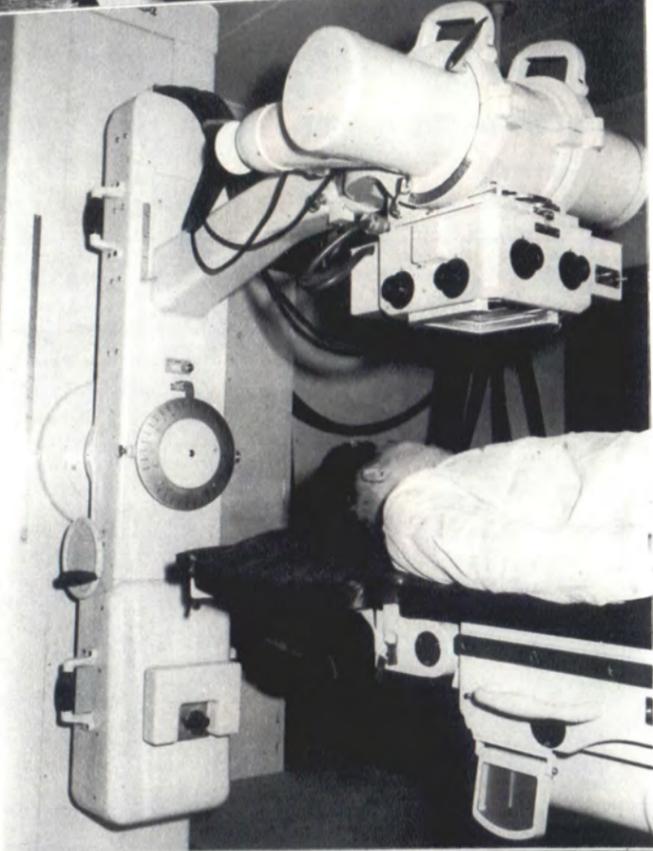


豊かな生活を築く

乾燥法

オイルバス

近代化が進む病院施設（県立中央病院）



生活の憩いの場団地づくりは進む（富山市）



豊かな生活を築くこと、それは、病気の無い生活、安らかな生活を築くことである。衛生面でも民生面でも、県民福祉の向上を目指して、県は全力をあげている。  
(上) 〇才から保健指導は始まる（保健所）  
(左上) 新築成った県衛生研究所  
(左中) 食中毒、病源菌に衛生監視員の眼が光る  
町ぐるみで赤痢の追放  
(左下) 黄い血の追放に愛の献血運動

道を横切るときは、先ず片手をあげて、これが歩行者のエチケット



# 交通事故の追放



老人の福祉を増進するために、県では新しく流杉老人ホームを開設（富山市）



交通安全塔の数字が全部0になる日を祈ろう



街頭には、指導員が出での交通整理が毎日続けられている

児童福祉のセンター、児童相談所



肢体不自由児の施設「高志学園」を訪問したアメリカ知事一行



車輛点検は車の下までもぐり込んで行なわれる



何とか一人で歩けるように訓練に励む児童



日本海時代への跳躍



氷見市胡桃地区に災害救助法発動  
(昭和39年7月16日)



被災地を訪れ激励する吉田知事



豪雪から県土を救え(昭和38年1月)



10メートルを超える高波にさすがの防波堤も倒壊(昭和38年1月)



災害をはねかえして

空陸一体の防災体制



豪雪で孤立した部落へ救援物資の投下(昭和38年1月)

富山県民グラフ 昭和39年11月1日発行  
 編集人 富山県  
 発行人  
 印刷 共同印刷株式会社



富山県